

第2章

鹿沼市における

自殺の現状と課題

第2章 鹿沼市における自殺の現状と課題

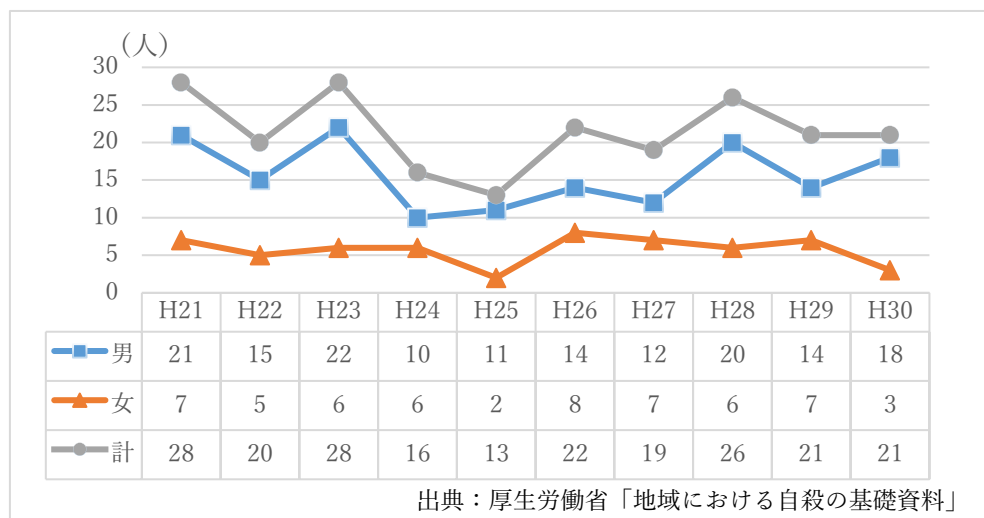
1 地域における自殺の基礎資料等からみる自殺の現状について

(1) 自殺者数の状況

本市の自殺者数は平成21(2009)年、平成23(2011)年に総数が28人で最多でした。以降、毎年20人前後の自殺者数となっています。

また、性別による自殺者数は、男性が女性の2倍以上多い状況が続いています(図1)。

図1 自殺者数の状況(平成21～30年)



(2) 自殺死亡率の状況

本市の自殺死亡率は、全国・栃木県の自殺死亡率が減少する中、平成28(2016)年、全国・栃木県を大きく上回りました。平成29(2017)年以降、自殺死亡率は減少しましたが、依然として全国・栃木県を上回る状況が続いています(図2)。

男女別自殺死亡率では、男性は増減を繰り返しており、平成28(2016)年・平成30(2018)年と県の数値を大きく上回っている状況です。一方で、女性は県と近い数値かそれ以下で推移しています(図3)。

図2 自殺死亡率(全国・栃木県との比較:平成21~30年)

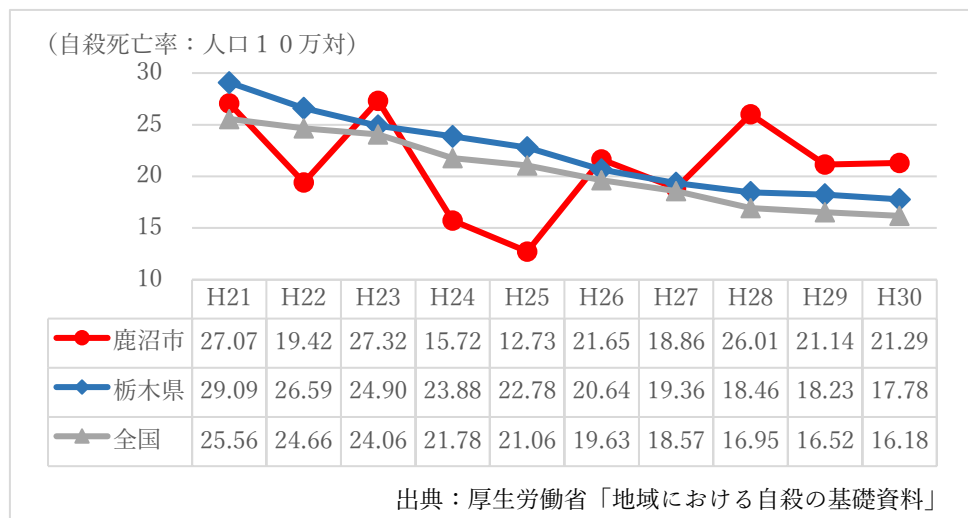
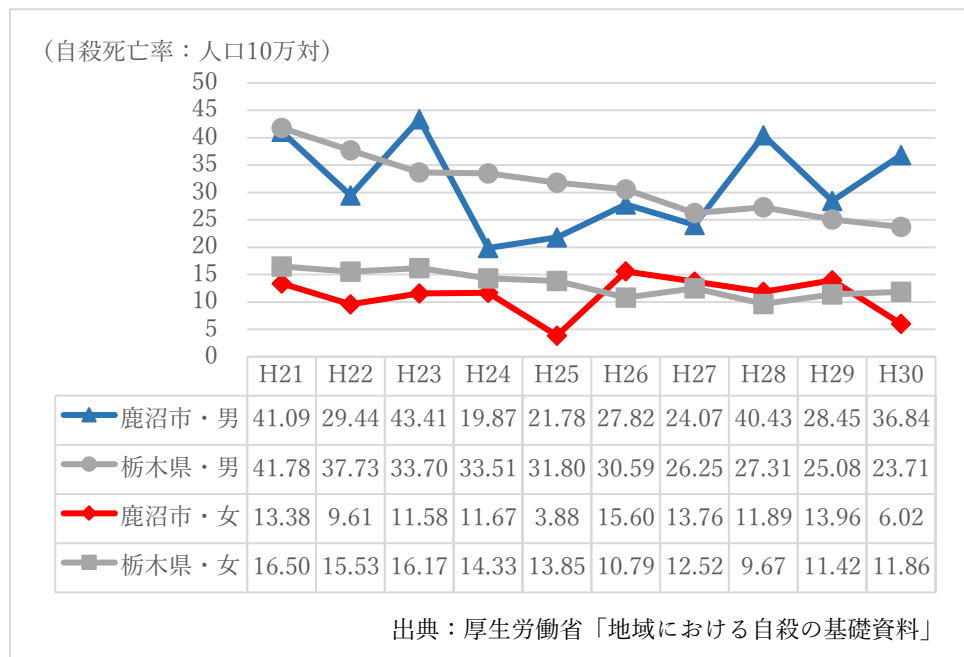


図3 男女別自殺死亡率(栃木県との比較:平成21~30年)



(3) 年齢階級別自殺者数の状況

年齢階級別の自殺者数を男女別に比較すると、最も自殺者が多いのは30代男性です。次いで、60代男性・50代男性が多い状況です。一方、女性は60代が最も多く、次いで80歳以上が多い状況です(図4)。

年齢階級別自殺者数の割合は、男性では30代、女性で60代・30代・20代未満が全国・栃木県と比較し高い状況です(図5・図6)。

図4 年齢階級別自殺者数の状況(男女別：平成21～30年合計)

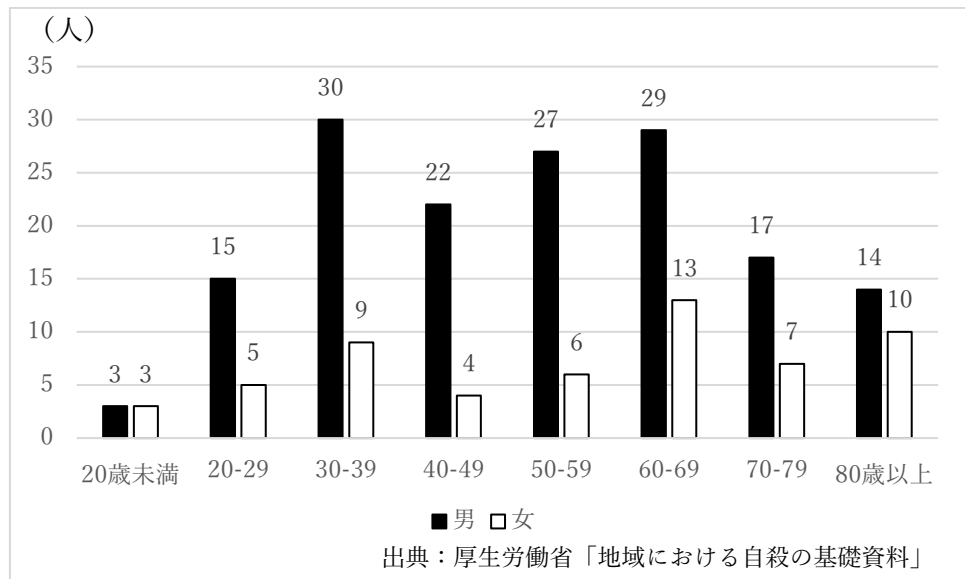


図5 男性の自殺者数割合(全国・栃木県との比較：平成21～30年合計)

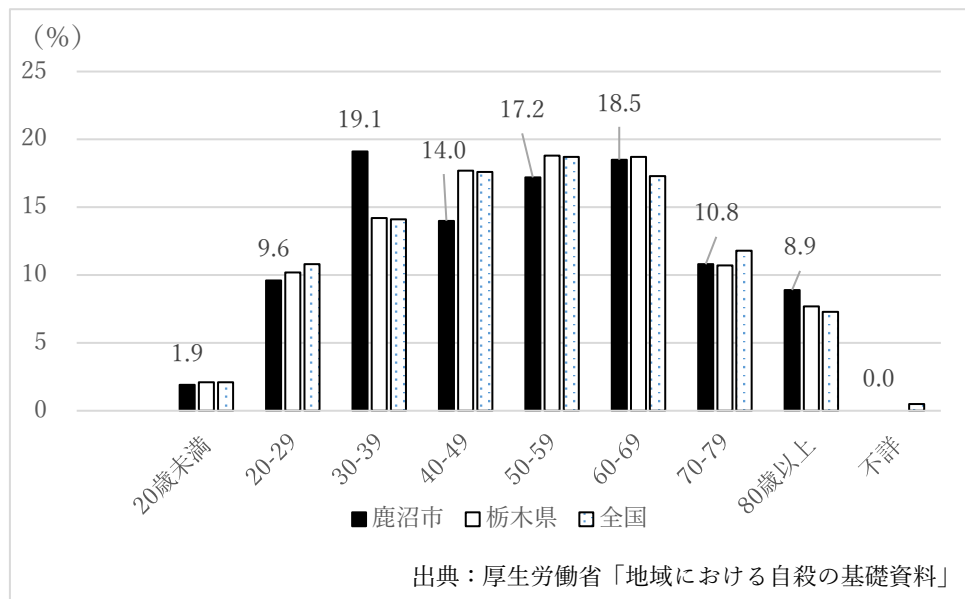
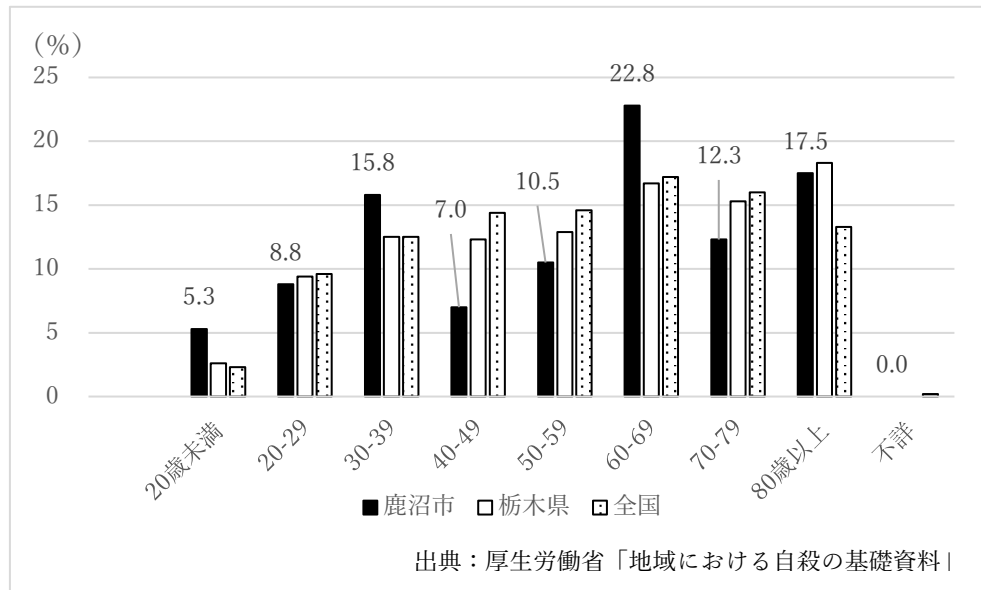


図6 女性の自殺者数割合（全国・栃木県との比較：平成21～30年合計）



(4) 職業別自殺者数割合

平成21（2009）年から平成30（2018）年の職業別自殺者数の割合では、男女ともに無職が最も多い状況です。男性は、女性に比べ、被雇用・勤め人、自営業・家族従業者が多い状況です（図7）。

職業別自殺者の割合は、「自営業・家族従業者」「失業者」「主婦」が全国・栃木県と比較し高い状況です（図8）。

図7 職業別自殺者数割合（平成21～30年合計）

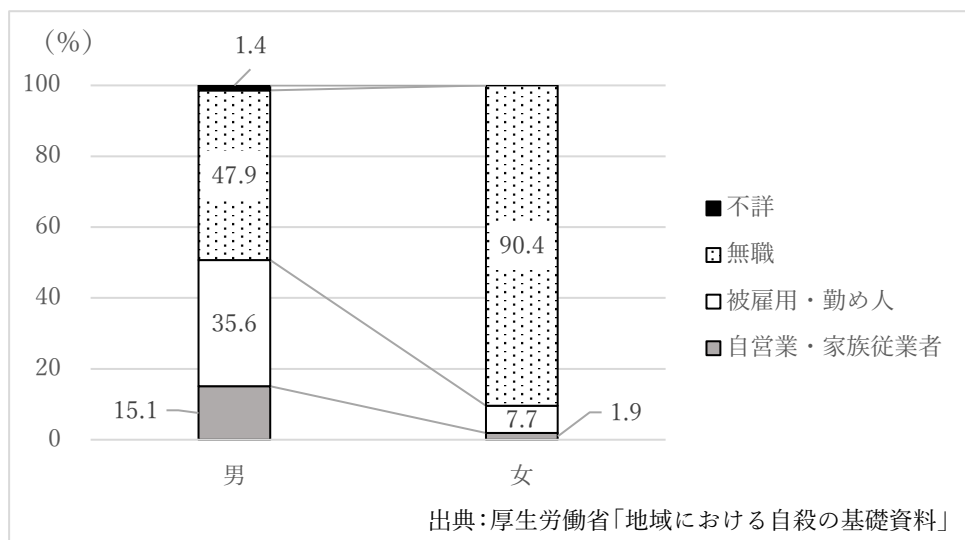
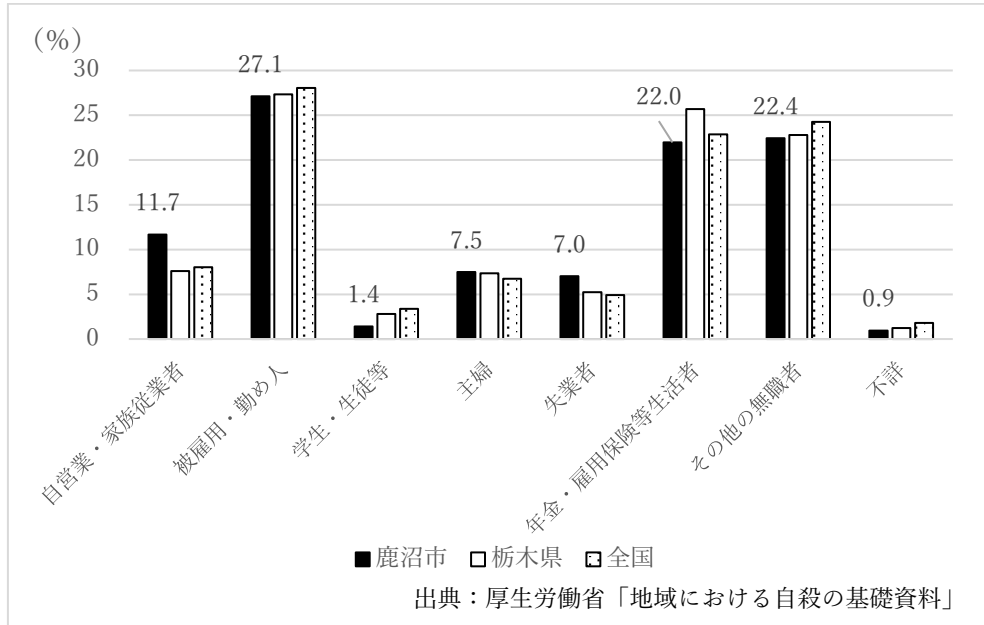


図8 職業別自殺者数割合（全国・栃木県との比較：平成21～30年合計）

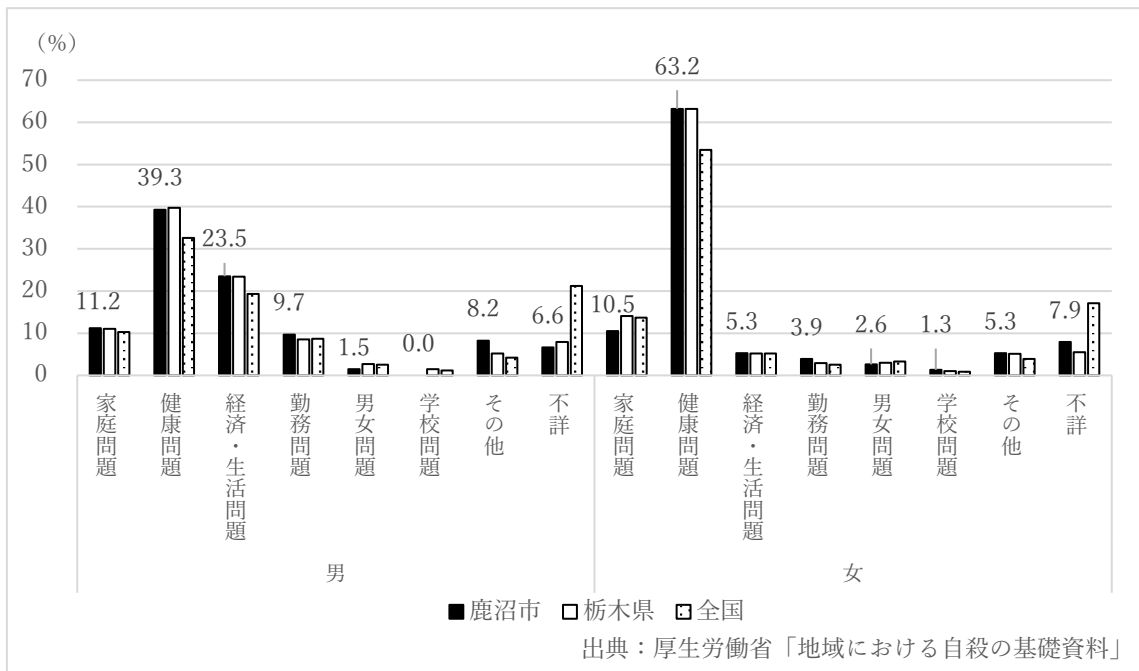


(5) 原因・動機別自殺者数割合

原因・動機別自殺者数の割合は、男女ともに健康問題が最も多い状況です(※1)。次いで、男性では経済・生活問題が多く、女性では、家庭問題が多い状況です。全国・栃木県も同様の傾向にあります(図9)。

※1 自殺の原因・動機で最も多いのは「健康問題」ですが、その背景には様々な社会的要因(経済・生活問題/家庭問題/勤務問題等)が複雑に関係しています。

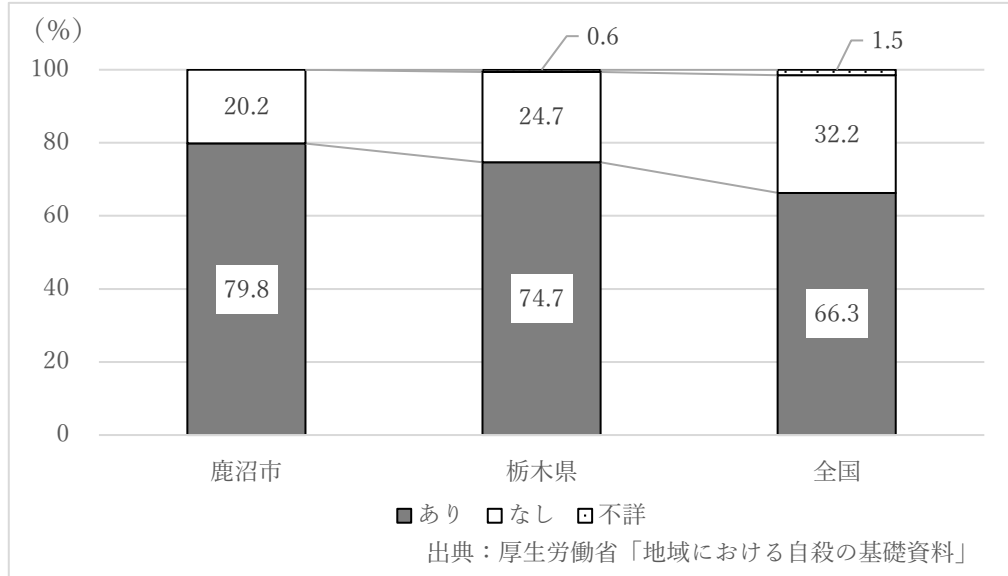
図9 男女別の原因・動機別自殺者数割合（全国・栃木県との比較：平成21～30年合計）



(6) 同居人の有無別割合

同居人の有無別割合は、「同居人あり」が約8割を占めています。全国・栃木県も同様の傾向にあります(図10)。

図10 同居人の有無別割合(全国・栃木県との比較:平成21~30年合計)

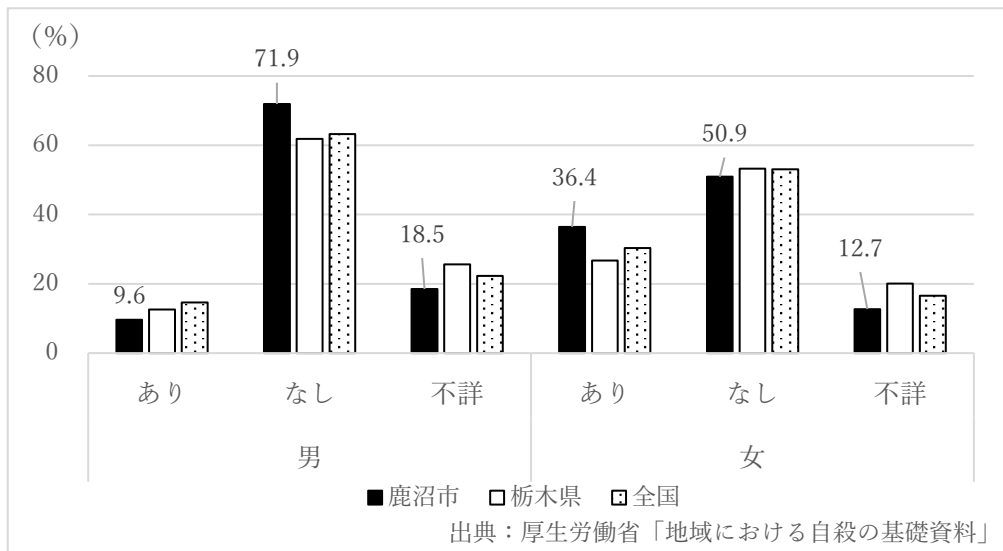


(7) 自殺未遂歴割合

自殺未遂歴の割合では、男女とも「自殺未遂歴なし」が多く、男性の「自殺未遂歴なし」、女性の「自殺未遂歴あり」が全国・栃木県と比較し多い状況です(図11)。

図11 男女別の自殺未遂歴割合

(全国・栃木県との比較:平成21~30年合計)



2 「健康かぬま21」アンケート調査結果からみるこころの健康に関する現状について

第3期健康増進計画 健康かぬま21 アンケート

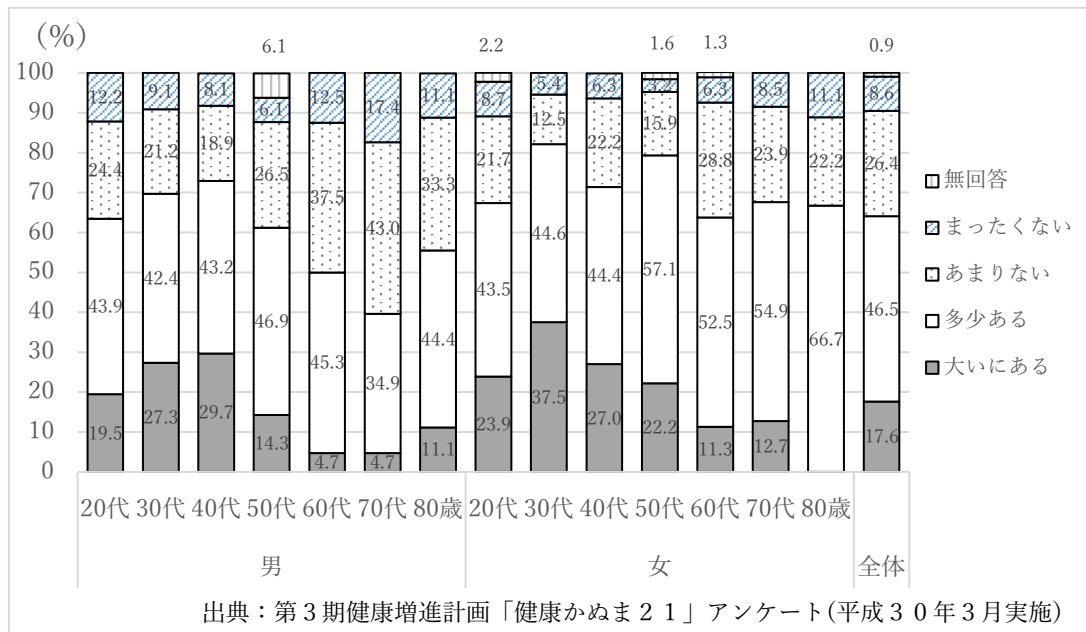
【調査方法】

- ・対象者：20～80歳の市民2,023人を無作為抽出
- ・調査時期：平成30年3月
- ・回収率：36.6% (回収数740)

(1) ここ1ヶ月間の不満、悩み、苦勞などによるストレスの有無

ここ1ヶ月ストレスが「大いにある」「多少ある」と答えた人の割合は、男性で40代、女性では30代が最も高く、働き世代のストレスが高い状況にあると考えられます。また、年齢とともに減少傾向にあります(図12)。

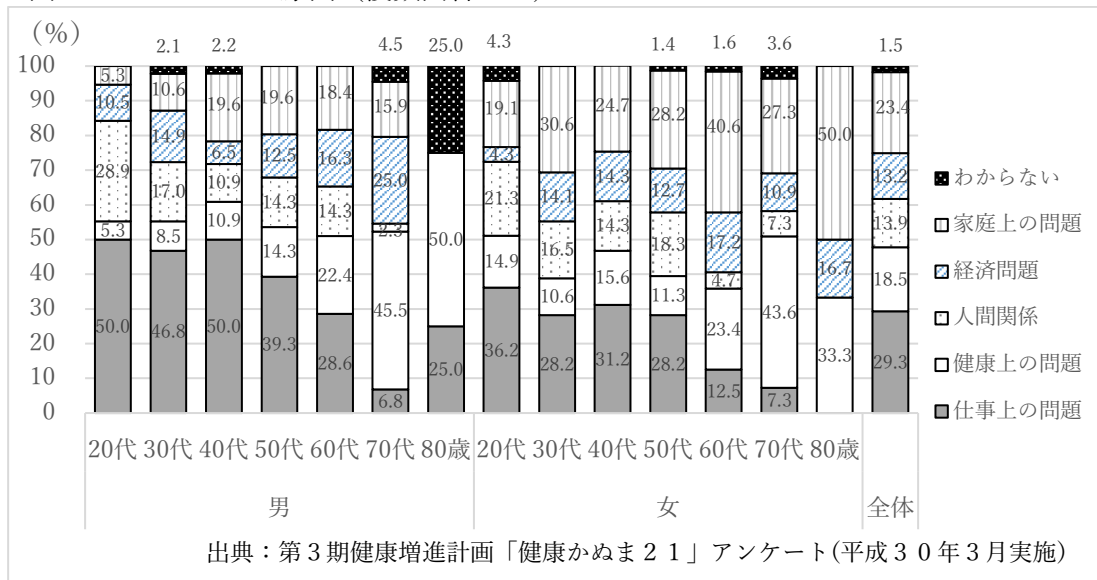
図12 ストレスの有無



(2) ストレスが「大いにある」「多少ある」と回答した人のストレスの原因

ストレスの原因として、男女とも若い世代では「仕事上の問題」の割合が高く、年齢が高くなると「健康上の問題」の割合が高くなっています。また、女性においては「家庭上の問題」の割合が高い傾向にあります(図13)。

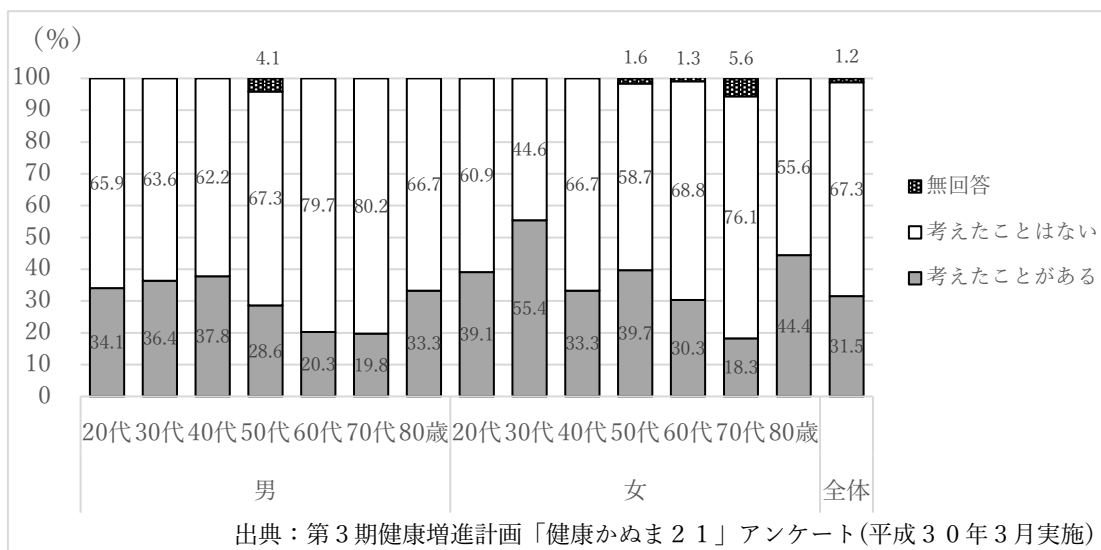
図13 ストレスの原因(複数回答あり)



(3) 自殺またはそれに近いことを考えたことのある人の割合

自殺またはそれに近いことを考えたことがある人の割合は、男性では40代・30代の「働き世代」が高い状況です。女性では、30代の「働き世代」「子育て世代」が最も高く、半数を超えています(図14)。

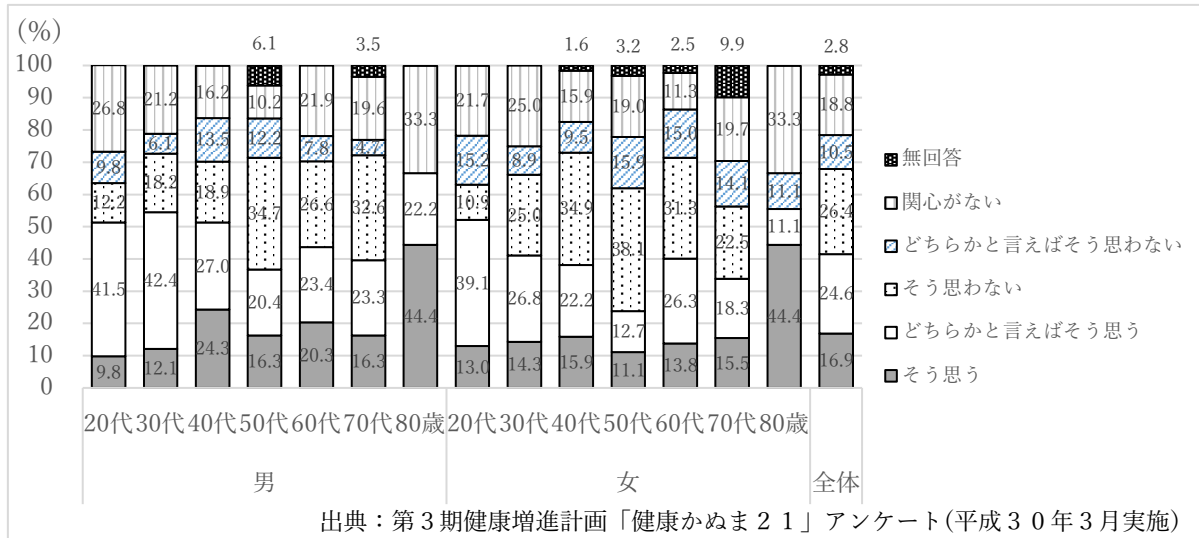
図14 自殺またはそれに近いことを考えたことのある人の割合



(4) 自殺対策は自分自身に関わることだと思うか

自殺対策は自分自身に関わることだと思うかについては、男女とも80歳の「高齢者世代」の割合が最も高い状況です。次いで、男性は20～40代、女性は20代の「若者世代」の割合が高くなっています(図15)。

図15 自殺対策は自分自身に関わることだと思うか

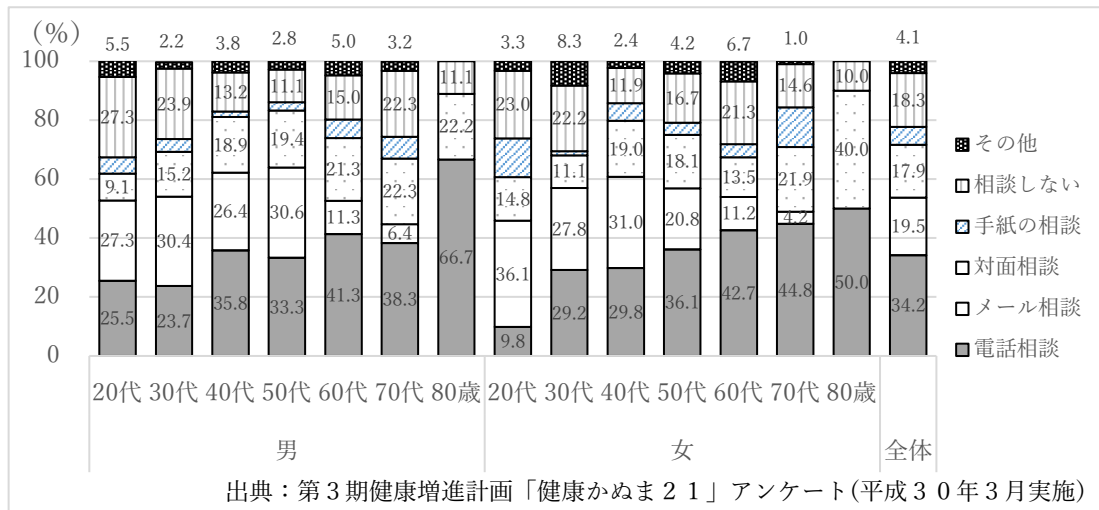


(5) 自殺またはそれに近いことを考えた時、相談しやすい方法

相談しやすい方法は、年齢が上がるとともに「電話相談」の割合が高くなっています。20～40代の「若者世代」では「メール相談」の割合が高くなっています。

一方で、男女とも20～30代、また70代男性・60代女性で「相談しない」という人の割合が高い状況です(図16)。

図16 自殺またはそれに近いことを考えた時、相談しやすい方法(複数回答あり)



3 課題

【課題1】

若者・働き世代の自殺者数割合は、国・県より高い。
また、自殺またはそれに近いことを考えた時であっても相談しない方が多い。

本市の自殺死亡率は、全国・栃木県と比較し、高い状況が続いており、特に男性の自殺死亡率が高くなっています(P 5 図2、図3)。

また、男性の自殺者数の割合は、30代で全国・栃木県の割合を上回っています(P 6 図5)。

こころの健康に関するアンケート調査では、ストレスが「大いにある」「多少ある」と答えた人の割合は、男性30代・40代で高く、働き世代のストレスが高い状況にあると考えられます。その原因として、「仕事上の問題」の割合が最も高くなっています(P 10 図12)(P 11 図13)。

若者・働き世代の女性をみると、30代の自殺者数の割合が全国・栃木県の割合を上回っています(P 7 図6)。また、こころの健康に関するアンケート調査でもストレスが「大いにある」「多少ある」と答えた人の割合は30代で最も高く、その原因として、「家庭上の問題」が最も多い状況です(P 10 図12、P 11 図13)。自殺またはそれに近いことを考えたことのある人の割合においても約半数の方が「考えたことがある」と回答しています(P 11 図14)。

若者・働き世代の男女共に、相談しやすい方法としては、「電話相談」や「メール相談」が多くなっています。一方で、「相談しない」とも回答している人の割合も高い状況です(P 12 図16)。

若者・働き世代は、職場や家庭の双方で重要な役割を担い、ストレスを抱えることが多い世代です。過労・職場の人間関係や仕事の悩み、家庭上の問題等がうつ病の引き金になると考えられますが、悩みを相談せず抱え込む方も多い状況です。

【課題2】

女性の自殺者は高齢世代に多い。

年齢階級別自殺者数の状況は、60代女性が最も多く、自殺者数の割合も全国・栃木県の割合を大きく上回っています。(P 6 図4、P 7 図6)。

こころの健康に関するアンケート調査で、60代女性のストレスの原因は「家庭上の問題」が最も多い状況です(P 11 図13)。また、相談しやすい方法は、「電話相談」が多い状況ですが、一方で、「相談しない」と回答している人の割合も高い状況です(P 12 図16)。

高齢世代の女性は、健康上の問題や家庭上の問題、介護の悩み（疲れ）、親しい人との死別等が、うつ病の引き金となり、孤独や孤立状態に陥りやすいと考えられます。

【課題3】

男性の自殺の原因は、「経済・生活問題」が健康問題に次いで多い。

男性の原因・動機別自殺者数の割合では、「経済・生活問題」が「健康問題」に次いで高い状況です（P 8 図9）。

また、こころの健康に関するアンケート調査で、ストレスが「大いにある」「多少ある」と答えた人で、その原因が「経済問題」と答えた人の割合は、男性70代が最も高く、次いで60代となっています（P 11 図13）。

経済・生活問題の背景には、無職・失業、多重債務や身体・精神疾患や介護等、複合的な課題があり、自殺リスクが高いと考えられ